

奥多野における大型菌類の調査

佐藤利正¹⁾、國友幸夫²⁾、坂田春生²⁾、松本哲夫²⁾、齊藤みづほ²⁾

1) 群馬県立自然史博物館 2) 群馬県林業試験場

1. はじめに

奥多野地域は、群馬県の南西部に位置し、東西に神流川が流れ、急峻な山々が連なる地域である。自然史博物館では、平成 22～25 年度にかけて上野村に自生する大型菌類を調査した。大型菌類とは、肉眼的な大きさの子実体を形成する菌類、きのこ総称される担子菌類や子囊菌類の一部を指す（日本菌学会,2013）。平成 26～28 年度から 3 か年は、上野村と隣接する奥多野地域及びその周辺町村の大型菌類の基礎的情報収集を目的として調査している。今回は平成 28 年度の調査結果及び 3 か年のまとめについて報告する。

2. 調査方法

調査においては、大型菌類を採集する前に写真撮影を行い、採集環境、気質などの状況を記録した。採集した大型菌類は現地で色や形、味、臭い、変色性などの特徴を記録し、種の同定を行った。孢子観察等の顕微鏡的観察が必要な種については博物館において検鏡を行った。同定作業後は、送風乾燥法及び真空凍結乾燥法により証拠標本を作製し、収蔵した(金井, 2011)。

3. 調査結果

過去の記録から、平成 26 年度の調査では、神流町、上野村、下仁田町において 72 点（27 科、59 種）、平成 27 年度では上野村、下仁田町において 136 点（36 科、96 種）の標本が採集されており、平成 28 年度は、上野村の登山道及びその周辺において 111 点（34 科、81 種）の標本を採集した。

平成 28 年度は同定の結果、子囊菌門は 3 科 8 種、担子菌門は 31 科 73 種を確認し収蔵した。子囊菌門ではベニチャワンタケ科のシロキツネノサカズキモドキやベニチャワンタケの一種（6 種）、クロサイワイタケ科のマメザヤタケ、またクロチャワンタケ科のオオゴムタケ、また担子菌門では主にナヨタケ科（7 種）、タマチョレイタケ科（6 種）、モエギタケ科（6 種）、キシメジ科（5 種）等を確認し収蔵した。

表 1 平成 28 年調査実施日と採集した主な菌類

調査日	調査場所	主な大型菌類
5月25日	笠丸山登山道周辺（上野村乙父）	アオゾメタケ、ウラベニガサ、ヒメカバイロタケ、フミヅキタケ（4科4種）
7月15日	北沢林道周辺（上野村檜原）	アラゲキクラゲ、イタチタケ、クサハツ、ニカワホウキタケ 他（16科、22種）
8月31日	まほ一ばの森周辺（上野村勝山）	アカヤマドリ、アマタケ、サクラタケ、ツヤウチワタケ 他（12科、19種）
10月14日	十石峠展望台周辺（上野村檜原）	クリタケ、チャナメツムタケ、ハナイグチ、ホテイシメジ 他（17科、25種）
10月25日	川和自然公園周辺（上野村川和）	キララタケ、サジタケ、サマツモドキ、スギエダタケ 他（12科、21種）

【引用文献】日本菌学会(2013):大形菌類.菌類の辞典.朝倉書店,p299

金井英男(2011):大型菌類.群馬県立自然史博物館自然史調査報告書,(5):72-73

キーワード： 奥多野、大型菌類、きのこ、子囊菌、担子菌